

学校を飛び出して、
池田高校の先輩を取材しよう！

独占インタビュー 《衝撃》池高のOGに直撃取材！ 現在の仕事、昔の思い出

羽島特別支援学校
教員 田代真希さん



羽島特別支援学校で教師をしている田代さんに思い出や頑張っていることについてインタビューをしました。

Q：いつから教師になりたかったのですか。

昔から教師になりたかった。その時はまだ福祉はマインナーで、福祉の大学は少ししかなかったです。私は、日本福祉大学に進学して福祉の勉強と、福祉学部の中の、教員免許を取るコースに行って福祉と教育の勉強を二年しました。養護学校と世界史の勉強をして、養護学校の免許と世界史の中学校と高校の教師の免許を取りました。この池田高校に教育実習に来て世界史を専門にやっていました。

Q：教育で気を付けていることはなんですか。

物ではなく人として接して、一回一回をどれだけ大切にすることが大切です。教師というのは人と接する仕事です。教師として接するのは今日も明日も明後日もあるけれど、今日は今日でしかないから一つ一つ丁寧にしていきたいです。その中で何が大事なものを考えて授業をしていきます。一生懸命に考えているとやっぱり失敗や、間違えたこともあるし、もつとこうすればよかったともあるから、いろいろ悩むこともあります。けれど、その中でどれだけベストを考えられて尽くせるか。公務員の仕事は全体の奉仕者で、自分よりも優先されるのは何かを、考えます。どれだけ自分がその仕事をきちんとできて、その答えあなたたちがどれだけ頑張ったかが、先生の評価になります。

Q：生徒を預かるうえで何が大切ですか。

自分の感情はちよつと置いておくこと大切です。その状況とその子供たちにとつて必要なことや、その時何が必要かを考えることと生徒にとつて必要なことは何かを考えることが大切です。だから叱ることも、ほめることも沢山ある。一緒に活動して一緒に笑うことも沢山あります。みんなが違う目的を持ち、達成するために先生たちがやらなければいけないことがたくさんあります。だから、八人以上だと先生も手も目も回りきりません。だから一人一人をどれだけ見てこの子

Q：学校生活の中で一番つらい時間帯や楽しい時間帯はいつですか。

私は授業も楽しいし準備も授業を楽しくするためのものなので、別に苦ではありません。楽しい時間帯は、授業やっている時が一番楽しいです。先生が楽しくないとみんなも楽しくないです。そういうことを思っている人に自分の子を持つてもらいたくないですし、子供のために授業をやりませす。子供たちの喜びを自分の喜びにする、これを、みんな望んでいるのでそういう授業にしていきたいです。

Q：今年で何年目ですか、そして、初めて仕事をしたときどんなことを思いましたか。

今年で二十年目です。最初の教育実習の時は子供たちについていくことで精いっぱいでした。私たちはペアを組むので担任・副担任ひとりずつのチームとしてやらせてもらっています。先輩とチームになった時にいろいろ教えてもらいながら、でも学習しながら。あとは時間の流れが違います。子供たちの流れと私たちの時間の流れと普通に過ごせる人との流れと車椅子でもも耳も十分に聞こえない子と、みんな違います。

Q：人とうまく接する方法は何ですか。

同じようにすべての人と接しようとは思わないでいたほうが良いと思います。学校で同僚と過ごすときと家庭で家族と過ごす時と学校で先生と接するときでも全部同じ私だけけど、同じように接しようとは思わずに、自分の中のラインを決めておくことも大事です。自分の主義主張と相手の主義主張がぶつかり合う時もあるかもしれませんが、ただその人が言っていることが今は分からなくても経験をつめば、わかるかもしれないと思うておくか、この人と私は分かり合えない、しょうがないと思うて付き合ったほうが良いと思います。とても好きだったらその人の良いところと悪いところも合わせて好きになる自分で対応の仕方を考えていけると良いです。真面目から全部ぶつかって全部砕けて全部自分が傷ついてという風にならないようにして行ったほうが良いと思います。まだ高校生だから



Q：田代さんは、高校生活や大学生活の中でどんな人生の転機がありましたか。

さつきも人間関係うまくやるにはどうすればいいかという話がありました。けど昔寮生活をしていたので、いっばい問題が起きてそれこそ病気になる人が出て、ぶつかる人もいたし、人間関係で悩んで泣いて怒っていた人もいました。行事も運営していたしそういうことを4年間やってきたから、そこで大分人間関係はいるんなことを経験させてくれたので楽しいし、なかなか濃い時間でした。そこが人生の転機でした。濃い人間関係の中にいたから、別に今ならどんな人でも、だれでもうまくやれるような気がします。

Q：進路について生徒に伝えたいことはなんですか。

学生じゃなくて社会人になっていくことは君たちと一緒になんです。でも人とかがかわって人と生きていくこ



に必要なことを考えそれを授業に実現するための、狙いを考えて、授業をしていきます。

Q：印象に残った生徒さんはだれですか。

六年のうち四回も担任になった子がいます。その子が小さい頃から知っていてその子が大きくなるにつれ教師として私自身もキャリアアップしてきた流れなのでその子に教師にしてもらいました。子供を持つとその子に必要なものを自分が身に着けないといけませんでした。亡くなった子も何人かいて見送るのはとてもつらいです。

Q：なぜこの学校に来たのですか。

なぜこの新設の学校に来たかというのと、新設の学校は前年度の事例がありません。すべてみんな話しかけて一番いい形を探って作り上げていくという年なので、みんな協力しているんなことに取り組みます。それが新設校の醍醐味です。忙しいけれどそれを味わうために来ています。

とを十分に味わいながら生活するといいかんと思えます。「ごめんなさい」よりも「ありがとう」を言えるようになるような人生がいいと思います。

Q：田代さんにとって働くことはなんですか。

やりたいなあと思うこと、自分でいられること、それは仕事だけじゃないかもしれないです。私は働くということ自体を自分がやりたいことだから手段というかものになっています。そうであるときつと楽しいのかなと思います。

Q：最後にみんなにメッセージをください。

この情報化社会では、スマートフォンやメールでやり取りしているが、人と人がぶつかり合って傷つきあってもやっぱここはと張り合うところまで行ってほしいです。メールで喧嘩してメールで仲直りせず、そこをもつと高校生のうちに、味わえるよよいと思います。それがみんなの心と精神を強くして、社会に出た時に、人間関係で悩んだ時の土台となるので、もつといっばい、笑って悩んで泣いて怒って高校生活を楽しめばいいと思います。



取材・記事：松久幹也

教師の仕事はとても大変だがとても面白いことがわかりました。高校を卒業したら何になりたいか決めていますか？今のうちからやりたいことを決めて、その進路に向かって頑張りたいです。